

都市域における局所的集中豪雨に対する雨水管理技術実証事業

実証事業実施者

メタウォーター(株)・(株)新日本コンサルタント・古野電気(株)・江守商事(株)・(株)日水コン・神戸大学・福井市・富山市 共同研究体

実証フィールド

福井市:(自助支援)橋南、加茂河原・小山谷排水区 238ha、(施設運転支援)狐川右岸第6、下北野排水区 284ha

富山市:(自助支援)呉羽排水区 200ha

実証の概要

「都市域レーダシステム」、「短時間降雨予測モデル」、「高速流出解析システム」を組み合わせた雨水管理技術を導入することにより、自助・共助の促進に係る情報の活用や雨水貯留施設能力の最大活用等について検証し、**浸水被害軽減効果等を実証**します。



○提案技術の革新性等の特徴

- (1) 小型で安価な降雨レーダを複数設置し、積乱雲等を早期かつ着実にキャッチすることで、今降っている雨の量を正確に計測します。
- (2) 「短時間降雨予測モデル」によりこれから降る雨の量や場所を予測します。
- (3) (1)および(2)の情報に基づいて、「高速流出解析システム」で短時間に解析することで、いち早くどこのエリアで、どれだけ溢れるか、また、雨水貯留施設等にどれだけ雨が流入するかを予測し、リアルタイムに情報を配信します。
- (4) 配信情報を活用することで、避難や土のう等の設置に対応する時間の確保が可能となり、また、雨水貯留施設の排水ポンプを放流先の状況に応じて、できる限り排水することで貯留量を最大限確保することが可能となり、**浸水被害の軽減を実現**します。